# 神戸市北区芦谷渓谷産ウンカ二種

髙　橋　寿　郎

○　キボシマルウンカ　Gergithus iguchii Matsumura

テントウムシ科のエピラクナ属の種に良く似ていて仲々きれいである。古く江崎博士（日本昆虫図鑑，P. 322, f. 867, 1950），竹内博士の京都貴船産の原色での図説（原色日本昆虫図鑑下，pl. 23, f. 318, P.66, 1955）があり，また原色昆虫大図鑑，第3巻にも図説されている（pl. 66, f. 8, P.131, 1965）。それらによると本州と四国の山地で採集されるが一般にはまれと解説されている。

１９８２年9月１３日神戸市内芦谷渓谷で多くいるのに出会った（内4 exs. leg.）。

本種の原記載は見ていないが種名に iguchii とあるのは郷土の昆虫研究の大先輩井口宗平氏に献名されているわけで基産地も兵庫県であろうと考えられる。事実井口氏自身１９０８年の昆虫世界誌上（Vol, 12, №131, P.292）に"兵庫県佐用郡産昆虫目録"と題して発表された報文の中でマルウンカの一種 Hemisphaerius？として記録された後氏自身キボシマルウンカ Hemisphaerius luteopictus Mats. と訂正された種（1.C., Vol. 13, №141, P.205, 1909）が之に当ると思はれる。従って兵庫県下では既に記録がある種である（山本義丸氏の"兵庫県氷上郡昆虫目録，１９５８"には見当らなかった）。１０月７日には市内の烏原でも採集出来た。県下では可成り広くいる種ではないかと考えられる（出現期の関係で見落されているように思はれるが　－　）。

西川氏は"箕面の同翅目，１９８０"の中で"ハンノキやカワヤナギの枝をビーテイグして lex. を採っている（１９７５年5月１８日，こちらの出現期は早い）"と記録しておられる。

○　アヤヘリハネナガウンカ　Losbanosia hibaensis（Matsumura, 1935）

前翅前縁部に綾波状の大きな赤褐色紋をもつ美しいハネナガウンカの１種で古く江崎博士の図説（1. C., P.310, f.833, 1950）もあれば竹内博士の京都大悲山産の原色図説もある（1. C., pl. 23, f. 350, P. 65, 1955）。原色昆虫大図鑑，第３巻にも図説されていて（1. C., pl. 65, f.11, P.130, 1965），本州，四国，九州に分布するが稀種とされている。

最近林　正美氏が本種の埼玉県下の産地を紹介されると共に若干の解説をされている（Rostria, 34：417−418，１９８２）。それによるとやはり産地は局所的であるむね記しておられる。食草については詳しく知られていないようである。兵庫県下での記録はどうなるのか筆者は良く知らない。山本義丸氏の目録（１９５８）には見当らなかったし，西川芳太郎氏のまとめられた"箕面の同翅亜目"（１９８０）の中にも記録されていなかった。髙井　桒氏は岐阜県関市産を写真で紹介されている（昆虫と自然，Vol. 15, №10, P.32, 1980）。１９８２年9月１３日神戸の芦谷渓谷で蜂谷幸雄

氏が２頭採集された。一応記録として報告しておき度い。標本は同氏の御好意で筆者が保管している。

## イシガケチョウの思い出

松　本　健　嗣

１９５９年9月２６日名古屋を中心に甚大な被害をもたらした伊勢湾台風、阪神地方でもかなりの風雨であったがその翌々日２８日秋晴れの日豪雨で荒れた山径を辿って摩耶山へ登った。山上の展望台広場を占拠しているツマグロヒョウモン♂を採集して、ふとロープウェイ駅の上空を見上げるとゴマダラチョウ春型を一廻り小さくしたような白っぽいタテハチョウが威勢よく飛び廻っている。紛れもなくイシガケチョウであった。その後１０月３日今度は和泉山脈岩湧山へ行った。南麓の根古谷を進んでゆくと此処でもイシガケチョウが4・5頭杉木立の上を活発に競飛していた。だが先日と同様たゞ唖然と見上げるばかりであった。神戸摩耶山では１９６６年6月３０日にふたゝびこの蝶を見ている。

以上が私のイシガケチョウ採集失敗記録であり、他に近畿中北部では見たことはない。その当時私はガイドブック等を読んで本種（Cyrestis thyodamas）はクロコノマチョウと共に近畿中部でも稀ではないものと思っていた。だがその後はクロコノマ程採集例を聞かない。大阪の知人の話しでは和泉山脈方面でも１９６０年代に入ってからはサッパリ見られなくなったと云う。神戸での本種の採集例として手許にある文献では京阪神の動物（東　正雄　六月社）には１９６１年7月２３日六甲山、１９４８年摩耶山での記録が載っている。また１９３８年の昆虫界には１９３６年須磨一ノ谷で２頭とれたことが記されている（横山光夫）。

## アオスジアゲハ冬至に屋外で羽化

松　本　健　嗣

昨年（１９８２）の立冬以後はたいへん暖く、一向に冬らしくない陽気が続いたが１２月２２日冬至の日正午過ぎ神戸市中央区国鉄元町駅南側の街路クスの根元で横倒しになりかすかに翅を震わせているアオスジアゲハを拾った。ストーブのそばに置いたところ、やがて翅を半開するに至ったが付属肢を動かす迄には至らなかった。正常の春型♂で翅は完全に伸長していた。